

どうして高校だけが男女別、それも男が先、女が後の順で合格者名を発表するのでしょうか。これは小・中・高校の児童生徒の名簿が「男が先、女が後」になっているからに他なりません。

これに対して私たちは、1990年5月小・中学校で使われる児童生徒名簿を男女混合50音順名簿にするよう長崎市長に陳情しました。



陳 情 書

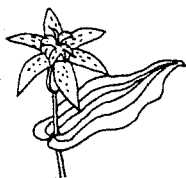
現在小・中学校で使っている50音順の男女が別になった名簿は男性優位で女性差別です。というのは、幼い頃から、氏名を呼ばれるときも、行動するときも、「男が先、女が後」になっているのは、知らず知らずのうちに女子はいつも男子の後について行動するものだという誤った観念を子どもたちに刷り込み、男女差別意識を植えつけるものです。人間を男、女で見るのではなく、個として見つめ、個の開発、伸長の教育をすすめてほしいと思います。



この時市長はある程度理解を示したものの、長崎市教育委員会は「保健体育や郊外学習などの集団指導の面などは男女別に把握したほうがいい。男女別名簿は差別ではない。」と応じませんでした。その2ヵ月後、市議会でも男女混合名簿のことがとりあげられましたが、市教育長は「堺市などの自治体がすでに導入していることは知っているが、やはり事務手続きが煩雑になるので導入には慎重を要する」と取り組む気持ちがないことを明言しました。それでも私たちはあきらめませんでした。今度は市内の小・中学校の校長宛に次のような要請書を送りました。

要 請 書

世の中は大きく変わっています。身体測定が別だから、また事務が煩雑だからという理由で毎朝の呼名から始まって会場への入場順、座席、卒業証書の授与、そして退場までをすべて男の後に女を位置づけて卒業させるということは、もう明らかに性差別以外の何ものでもありません。どうか、卒業式では「男女平等教育」の精神を生かして男女混合五十音順で呼名して下さい。



また次の年も市教委に対して「男子優先名簿撤廃についての申し入れ書」を提出しました。このことは多くの新聞に取り上げられましたが、それらを読んだ他県の女性グループの一つから「世界の物笑い、男から始まる出席簿」と題した小冊子が送られてきました。それによると男女別名簿は日本と韓国とインドだけだそうです。

「国連婦人の10年・ナイロビ世界会議」でこのことを話題にしたら多くの国々から「明らかに性差別だ」「不公平だ！女子がかわいそう」という声が次々に上がったということです。

このような折、昨年の春の県教職員異動の名簿で長崎市だけが「男が先、女が後」の順に掲載されていました。生徒ばかりでなく教員までもが男が先なのか！あまりの人権意識の低さにあきらはてしまったものの、気をとり直してさっそく長崎教育事務所を訪れたところ「意図的にやったことではないから」と言われました。しかしながら今春3月の教職員異動の名簿は男女混合に変更されていました。差別された者の痛みは差別する方にはわからないのです。だからこそ気がついた方から1つ1つ指摘していくことが大切だと思いました。

今年の4月もまた私たちは、上記の合格者発表の新聞記事を持って混合名簿導入の申し入れのため、県教育庁を訪問しました。そこで学校教育課の指導主事の方が応対されましたが、「男が先、女が後という合格者名簿をこちらは一切指導しておりません。法的なしほりもありません。それは各学校で決めることです。たとえ各学校が混合名簿になってもこちらには不都合はありません。」という回答をもらいました。1歩前進！しかし私たちは「各学校に任せるのではなく、男女平等の基本理念として教育庁こそが指導すべきではないでしょうか。ぜひ研修等でも取り上げてほしい。」と要請してきました。

現在、東京、大阪、京都府、福岡、山口、富山県など全国的に混合名簿の実施は広がりつつあります。女性差別のない社会を実現するためには混合名簿は不可欠のものでしょうし、世界の流れからいってもいつかは必ず混合名簿は「当たり前」の話になるでしょう。でもその時、長崎県が日本で最後に混合名簿を採用する県にならないようにしてほしいと思います。



田嶋陽子さんの講演を聞いて



門 更月

T.V.番組『笑っていいとも』や『たけしのT.V.タタリ』でフェミニストとして気焰を吐いて、私たち女性の溜飲を下げてくれている法政大学教授の田嶋陽子さんが初めて長崎にやってきました。会場は600人以上の女性で埋めつくされ、(昼夜2回とも)期待に胸を7777させていたところ、待てました。後ろの方から田嶋さんがにこやかに登場！ライトに照らし出された田嶋さんは黒のシャツに黒のスーツ、腰上は真黄色のロングスカートをはいて、スカートの中は銀の大粒なイヤリングをぶら下げ、イヤーンとジカッとした。T.V.で見るとよりずっととてつもない。会場のあちこちから「わーわー」「わーわー」「わーわー」とか声があちこち上がった。そしてそのセリフは早口で歯切れがよく、ズバッとした物言いをするけれども、ユーモアたっぷりなので痛快そのものでした。

話の内容は、女性差別の問題は見えにくいけれどやりにくいく。加えて男もそして女もでも自分の生き方を揺さぶられることになるので、教える見ようとなし。でも私1人が変われば周りが何かしか変わるから、まずは私1人から始まるということで、あなた1人が変わっていくことが大切。

昔、人間は女族と男族に分れて暮らしていた。女族はレズビアン、男族はホモセクシュアルの愛情で結びついており、子孫を残すためだけに異性とSexが行われ、生まれた子供が女なら女族が、男なら男族がひきとって育てた。女族は妊娠・出産があるから平和裡に暮らしていたが、妊娠・出産がなくて

力があり余って戦闘的な男族は戦争によって領土を広げ、畜を基盤とした階級社会を形成する。やがて土地や財産を多くもった男たちはそれらを子孫に残したいと考え、女を女族からさらってくる。その場合、女は髪も長い方が、腰の細い方がつかまえるやすい。だから男はそういう女が好きなのだ。(爆笑)さらってくるだけでは不足して、女族の集落を男族が攻撃して戦争になる。女族はアマゾネス軍団のようなので抵抗するが、妊娠・出産のハンディのため負けることが多い。捕虜となった女たちはレイプされ、妊娠するため、なかなか逃げることができない。男も女を逃げまわりたいように女の足を切る。この事を象徴しているのが、アンデルセン童話の「赤い靴」や「人魚姫」や「シンデレラ」でおんな男が作った物語。また中国の足もろい例。しかし足を切ると女が動けなくなって男も不便だから足を切らないで逃げかき方法を考えた。それが結婚制度。女は男の植民地だから分割して統治するものが効果的。女たちが集団で反抗しないように、ためら女1人に夫1人。女にとりて夫は主人。女は家内=家内奴隷。その事を宗教や学問で幼い頃から頭にすりこんでいく。聖書を男が作ったものだ。

女の奴隷(ドレイ)には主婦ドレイ、快樂ドレイ、逃亡ドレイの3種類がある。逃亡ドレイはこのような男性優位の社会のしくみから逃げ出した自分たちのような存在。主婦ドレイは、愛という名のもとに、家事労働やSexを強制され、タダで搾取されている。裁判では老人介護を含む家事労働の報酬は月40万円と結論を出したことがある。(専業主婦でこれだけもらっている人が、この会場にいるだろうか。)やはり女が自分で人生を選ぶ時“お足”=お金は必要なのだ。それを奪われちゃっている。もう1人の快樂ドレイは16~25才までの若い女性を対象として女をSex Symbolとしてしか見ていない。女をバカにしている。女をバカにしている新聞記事やメディアにはどんどん抗議や投書をしよう。1人の投書の後ろには1万人の同じ思いの人がいると新聞社はみるものだ。

ところで、何の問題もない恵まれた幸せな専業主婦もいるかもしれない。しかし、女性差別は社会の構造的差別なので、1人だけ差別されない(私だけは別)ということはありません。だから、社会の構造をこわすしかないのだ。良妻賢母を自認し、夫や子どもに尽くしている人は「私」のいない、「私」を抑圧しているから、その膿は必ず吹き出すものだ。そしてそれは子どもや自分の内面に向けられる。

「尽くすということは相手からたぶん感謝されるだろうけど、決して尊敬されることはない。」



3年間の時が過ぎました。

女がええことになる言葉が月に1回のていいます

「女のノート 3年」印刷が出来ました。

「3年では女は変わる」と自分を見つめつけ書きつけて下さる人達。ありがとう。今度もよろしくお預けします。

定価1500円。2「好文」から書店で売っています。遠くの方は送料共1800円。

事務局申し込み下エネ。

